

第1課「あらゆる祝福の源である神をたたえよ！」

- * 「心と身体の健康」は、私たちが求めるべき神の祝福である事を心にとめたい。神は罪の結果、弱くなった私たちの心と身体、そして色々な意味で汚されてしまったこの世を回復したいと強烈に願っておられる。神のかたちに似せて創造された人類を回復する事は、この世を回復する事に繋がる。私たちが個人的にできる事は何だろう。それは、私たち一人一人の心と身体の健康が神によって回復されてゆく祝福にあずかる事に他ならない。

1. 愛による救い

- **自由意志**：自由意志とは「神に従う事も背くこともできる能力」（聖書研究ガイド5p）。神は私たちに自由意志を与え、それを尊重される。それは、神と私たちの正しい関係を示している。人間は決して神の思うままに働く者（奴隷やロボットの様に）として造られてはいない。神はお互いの関係を持って成り立つ絆を意図されている。自分の意志で愛する事は、強いられて愛さなければならない事に比べると、はるかに価値があり尊い事である。しかし、同時に自分の意志で愛さない事も選ぶことができる。いずれにしても、自由意志が与えられている事には与えられている者に対する責任が伴う。
- **自由意志の素晴らしさ（神に従う能力）**：自由意志の故に私たちは真の幸福と満足を実感することができる。愛に結ばれた関係によって、神との絆を深められる事は、恐らく私たちが想像することもできない程、存在する喜びに満たされ、ますます神に似た者として成長してゆける事に感動するだろう。神を愛する事を選ぶことは、人として最善最高の幸福を永遠に生きてゆく事を選ぶ事であるという事に気づかされる。
- **自由意志の危険（神に背く能力）**：神に背き命の源である神から離れる事は、まるで根無し草のようなもので、やがて枯れて失われてゆく。これは私たちの悲しみだが、神にとっても、想像を絶する程の悲しみなのである。神に背く事は罪であり、それは滅びという結果が伴う。
- **人類救済計画**：神は人類が罪を犯す可能性（自由意志の危険）に対して、その対処を創造以前から用意されていた。神ご自身の命に代えて人類を救う、贖いの十字架は、愛と恵みによって罪人のために計画された（2テモテ1：9）。これは、あくまでも万が一の為の備えであって、決して罪を予定していたのではない。
- **イエスの模範に従う**：神の愛への応答として、私たちはイエスに倣う者となる事が期待されている。互いに赦し合い（エフェソ4：32）、愛を全ての動機として歩み（エフェソ5：2）、謙遜と従順によって（フィリピ2：5～8）、忍耐をもって（コロサイ3：13）生きる事である。

2. 神の望み

- **恵みの神**：神の救いは恵み（一方的に神によって与えられる）であり、その恵みを受ける条件は信仰（行ないによって得る事ではない）である。恵みが一方的に与えられるのは、私たちがすぐに高慢になる事（自分の力で成功するといい気になって神を忘れ、本来神の座するべきところに自らを置いてしまう）を神はご存知で、神を忘れない様にする為である。ところで、私は神の恵みの賜物を本当に喜んでいるだろうか？ 喜ばなければいけないと思っただろうか？ 賜物の価値を知らない者は、飛翔面的に喜んでいる様に見えるが、実のところ喜んでいない。私は救いの素晴らしさをどれほど実感しているだろうか？ 天国や自らの回復（心と身体の完全回復）が、どんなにありがたく、素晴らしく、すごい事か知っているだろうか？ 聖書を深く学び、神の愛に触れなければ決して分かる事ではないと思う（エフェソ2：8～9）。
- **愛の関係を再建する**：全ての掟の中で最も重要なのは「愛する事」である（マタイ22：37～38）。愛は全ての動機であり基礎である。人は愛に触れた時、愛に気づき、思いが深まり、感動し、真の喜びを経験する。そして、積極的に愛を実践したいと願う様になる。もし、愛を後回しにしたり、愛を誤解（愛を浅はかにとらえる）したり、見失ってしまったらすると、神の愛から離れ、人間同士の愛からも離れ、自己中心的、利己的になる。不安、失望、不満足、諦め、妥協などが生じ、あらゆる欲望によって心の隙間を埋めようとしてしまう。愛に対する私自身の価値観はどうだろうか？ 真の愛を知る必要を感じているだろうか？

2. 神に対する応答

- **讚美する**：私たちは神が愛して下さっている事を知ると神にあって喜ぶことができる。その喜びが常に与えられている事を実感することによって神を賛美する。そして、神の愛と恵みを分かち合うことによって神の素晴らしさを確認し、ますます深くその愛を実感してゆく。私たちは罪の世界に生きているが、多くの苦難の中にあっても神は万事を益に導かれる。そして、神が用意して下さっている最終的な勝利の約束を希望とすることができる。神による感謝の数々を数えてみよう。そこに神の愛を見つけることができるだろう。
- **礼拝を捧げる**：礼拝は神に対する感謝の表現で、私たちが喜んで捧げるべきものであると思う。それは全てを神に委ねている事を証する。それは全身全霊をもってなす行為である。心だけでなく身体をも神を証するために備える事は大切である（ローマ12：1）。神は、思いだけでなく、命をも贖いのために差し出された。救いは全てが神から始まっている。神の愛とは我慢できない程に私たちに欲するのである。私が神を求める前に、神が私を熱烈に求めておられる（1ヨハネ4：10）。神が求めておられるような熱心さで、私たちは神を求めているだろうか？ 否である。ならば全身全霊を持って礼拝できる様に神に求め祈ろう。